

我がクラブの目指すところ (IM第2組)

茨木RC 会長

土手基史

戦後復興期を経て、クラブ数が急増を始めた元年とも言える昭和34年茨木ロータリークラブは誕生しました。テレビCMで大きいことはいいこととか、隣の車が小さくみえるとかは少し後年のことになりましたが、高度成長の高揚感が見られ始める時期だったと想像できます。

55周年を2014年に控えた今、永く続くことはいいことだ、をキーワードに据えていきたいと思います。今年度のクラブ方針の一つにも、「クラブを50年余維持して

きた先人の知恵に学ぶ」ことを掲げています。また会長の時間も私自身への学習ノルマとして今に語り継がれる主だったRCの先輩の事績を辿ることにしています。

永く続けているということは、企業をはじめとしてその団体が社会からのニーズに応えてきたという評価・ご褒美だと思います。

いい人材の増強を進め、将来の持続可能性をさらに高めたいと願っています。

茨木東RC 会長

木本誠一

茨木東ロータリークラブは本年度で40周年を迎えます。そこでこの茨木東ロータリークラブを創ったチャーターメンバー達の思いを振り返ってみました。

現在、チャーターメンバーは一人もクラブには残っていませんが、我々のクラブの長年積み上げ、守ってきた個性として受け継がれています。それは「和」「素朴」「純

真」の心です。

40周年でこの心をあらためて確認し、又、新しい時代に合ったロータリー活動も構築していかなばなりません。

会員一同和やかな中にも元気あふれるロータリークラブを目指していきます。

茨木西RC 会長

橋本善治

ロータリアンの基本として職業奉仕を大切に、会員一人一人が自らの事業に高い倫理性を求め、よい仕事をし社会に貢献すること、そして地域社会に貢献するクラブとする。

会員の長年の事業活動を通じてのみ得られる知恵・知恵とロータリーにおける職業奉仕に照らして得られることを会員各自が若い人に伝え広めること。家族、社

員、知人へロータリーの思想を広めることが重要であると考え。また、クラブの独自性を堅持しながらも地区や他クラブと協力し、ロータリー活動の成果を高めるようにする。そしてメンバーと会員家族がロータリーを楽しめるクラブとなることを目指す。

当クラブは本年度創立20周年を迎えるが、クラブの成熟はこれからです。

千里RC 会長

上橋芳雄

千里ロータリークラブは、昨年度40周年を迎え、さらに成熟したクラブになりました。しかし、会員数の減少や高齢化等課題も多く、今年度はじっくりと腰を据え会員一丸となって、この問題に取り組んでいます。

会員増強に関しては、金子委員長を中心に昨年度40周年の記念事業として、オープン例会を4回開催した際に参加していただいた方々をリストアップし、今年度の我がクラブの目玉である音楽例会にお招きし、さらに交流を深めることによって、入会のきっかけになるように

会員全員で努力しています。また、現状のロータリークラブの認知度の低さを少しでも打破するために、社会奉仕委員会の活動として、一般市民向けに（認知症予防について）の講演会を開催し、ロータリークラブの認知度を上げると共に存在意義をPRしたいと思っています。

その他、今年度の主な目標は、3年目を迎えるベトナムの子供たちの識字率向上プログラムをひき続き実施すること、そして東日本大震災復興支援にも出来る限り協力する事等で社会に貢献したいと考えています。

千里メイプルRC 会長

藤田芳浩

千里メイプルロータリークラブは、1998年6月13日に創立し、RI承認日は、1998年6月24日です。

本年6月25日には創立15周年記念例会を開催致しました。創立時の会員数が27名、その後3年目に31名となりましたが、現在は、会員数22名のクラブです。

第2660地区の中でも少人数のクラブですが、本年5月に第2660地区の各クラブ様のご協力を得て、ホストクラブとしてライラを開催致しました。この経験は、我がクラブにとって得難い財産となり、クラブ全体が一体感を持ち知恵を絞り互いに協力し、全員参加で実りあるライラを開催出来ました。

我がクラブの目指すところは、真に全員参加・全員協力です。しかしこれを達成するためには、日頃の例会が

大切です。

会員相互に敬意と友情を持ち、品位と礼節を尊びユーモアに溢れている、そんな例会を積み重ねることによってしか、この一体感は生まれてこないと思います。もちろん現状を満足しているわけではなく、千里メイプルロータリークラブを理解し親近感をもって頂く方の入会を積極的に活動して、同志をもっと増やさなければならぬのです。そうすれば、より内容のある、幅広い奉仕活動が実現できるのです。

これからも従来の例会とは趣の違う例会を企画し、会員の知人・友人の皆様に参加頂き、我がクラブへの理解と親近感を深め、入会したいと思われるクラブ作りを、全員参加・全員協力で目指していきたいと思っています。

摂津RC 会長

飯室正樹

電車・バス等に優先座席が設けていますが、実際殆ど機能していない様に思います。確かに立っている人が少ない時は、優先座席は空いていますが少し混んで来ると、優先座席も満席に成る。

先日私が天下茶屋始発の阪急電車に乗って摂津市駅に行く時、始発なもので空気で、私は車両の真ん中に座って出発するのを待っていると、母親が小学生2・3年位の男の子を連れて入ってきた時、その子供が端の優先座席の方へ行こうとしたら、母親は「そこは駄目」と云って違う席に座らせて、説明していた様でした。

確かに殆どの方は分かっておられるが、混んで来ると止むを得ない、自分一人だけ頑張ってもしょうがない。何かの切っ掛けが無いと出来るものではないでしょうか。

ここで提案なんですけど、優先座席は「一席」だけ空席を設ける運動を根気よくしていけば、やがては年寄りも安心して電車に乗れるのでは無いでしょうか。一個人がするには限度があります。

第2660地区の皆さんと一緒に声を上げれば、いずれ良い世の中に成るのでは無いでしょうか。

吹田RC 会長

平山直樹

私は、吹田ロータリークラブ第55代目の会長であります。私が入会した当時、伝統と格式を重んずるクラブに相応しい先輩方に例会時、お会いする度に自分の人生経験のなさ知識のなさに、身の縮むおもいをしたことを昨日の事のように思い出します。

強烈な印象として今でも鮮明に覚えているのですが、ある例会時会長が挨拶をしている最中にあるテーブルの会員仲間がべちゃくちゃ喋っていますとある大先輩が「黙らっしゃい」と一喝されたのであります。会員数

が減る傾向にある昨今、会員数を減らさないためにも、会員数を増やすためにも、どうしても楽しい雰囲気の例会を求めてしまいがちです。

しかし、それでロータリークラブの存在価値を持ち続けることができるのでしょうか。

ロータリークラブの会員は、それぞれの職業において功を遂げ名を成した人たちのはずです。楽しい例会の中にも規律・礼儀・道徳を重ずるクラブをこれからも目指さなければと考えます。

吹田江坂RC 会長

西山俊明

私どものクラブは、1990年2月に創立され、次年度に25周年を迎えます。現在の会員数は34名です。

クラブの特徴として、毎回の例会開始時に、会員相互

の再会を祝して相互に握手を行い、心を和らげて例会が始まります。また、第2660地区内で、女性会員第一号が誕生しており、毎回の例会で彼女の美声を聞くことも

楽しんでいます。更に、大学RACも地区で初めての創立で、クラブとの交流も年々深まっています。情報集会やハイキング同好会等も工夫を重ね、一層親睦を深めることに貢献しています。

ただ、会員数が減少傾向にあり、それに伴ってクラブの財政状態も年々厳しい状況になっています。新会員の増強が不可欠であることから、会員増強特別委員会を設置して具体的な対策を検討しながら、会員の増強意識をしっかりと持っていただくよう努力しています。

吹田西RC 会長

石崎克弘

ロータリーの本質はクラブです。各々クラブには歴史背景があります。10年前、また前年度と同じであれば何も改革ができない、社会から乖離してしまう。だからクラブの状況を把握して目標を考えなくてはなりません。

そこで私は、基本テーマ「クラブの伝統を継承し、改革への挑戦」のもと、クラブの伝統、すなわち土台を変えることなくロータリーの価値観に従い地域社会にこれらの価値観を広めるクラブ改革を敢行していかなくてはならないと思います。

会員増強は重点課題ではありますが、2010年、新世代奉仕(2013年規定審議会で青少年奉仕に変更)が五

クラブの目指すところとしては、地域との交流を深め、地域の奉仕に貢献したいと考えています。そのため、地域の奉仕活動を実践されているリーダーを卓話にお招きして、具体的なお話をお聞きして、会員の意識を高めています。

また、地元関西大学RACとの交流も年々深まり、今後、共同して地域の奉仕活動を実施するなどして、ロータリークラブへの理解を深めてもらい、他方で若い世代の育成にも力を入れていきたいと考えています。

大奉仕部門に位置づけられたことから、ロータリーの奉仕の理想を青少年と理解し合うことを目指さなければならぬと感じました。

我がクラブは本年度より新世代奉仕部門を組み入れました。ローターアクト、インターアクト、RYLA(ロータリー青少年指導者養成プログラム)、青少年交換などのプログラムは、新世代奉仕の重要な部分といえます。若いリーダーを育成し新会員として迎えることにより、地域社会をより良くしロータリーの未来が開かれていくと確信します。

「感動の体験を！人々にも、自身にも」

～参加し、敢行せよ～

高槻RC 会長

川面智義

学校教育にない教育支援として市内各公立高等学校から意欲溢れる推薦学生延べ200人を対象に課外学習として「高槻未来塾」の開講準備をしています。

このプロジェクトは、教育委員会・6校長様が目指したい教育理念と当RCが掲げる「日本の心の文化と新世

代の育成」～文化の担い手となる地域社会づくり～のコンセプト、とが一致し、スタートした事業です。

お蔭様で私達は、2014年6月15日に創立60周年を迎えます。高槻の文化と伝統の中で先輩諸氏が培われてこられた実績を顧み、会員一同、記念事業の成功に向

け新たな気持で取り組んでいます。

もう一つの目指すところは、クラブの事業計画やクラブ活性化・積極的寄付には活動基金が必要ですし、なくては何事も成しえません。将来を見据えても基金つ

くりは大切な活動です。各会員の寄付に対する意識革命の啓蒙と理解でこれも順調に推移していると判断しています。

高槻東RC 会長

高岸久典

高槻東ロータリークラブは昨年度において「台湾南徳RC」及び福島県「須賀川RC」と姉妹クラブ締結を行いました。

我がクラブの目指す処と致しましては、今後「台湾南徳RC」との関係を深め、国際平和に貢献すべく、また「須賀川RC」との関係につきましては、遅々として進まない東日本大震災の復興に少しでも貢献するために全力を注ぎたいと考えております。

国際奉仕に関しましても、カンボジア医療支援を行っております。

しかしながら、現下の状況を鑑みれば、会員減少が、今後の目標達成に大きな足かせになって参るのではないかと危惧される次第であります。

当クラブでは、37名の会員ですが、平均年齢もみましても65.86才となっており、現在、各プロジェクトを遂行されておられるのは、ごく限られた会員であり、次代を背負う若い世代を養成しなければ各プロジェクトとも頓挫しかねない状況であります。

その為、会員増強・若手の育成が喫緊の課題と考えられる次第であります。

高槻西RC 会長

森本 茂

1989年6月15日に創立。国際ロータリー第2660地区所属となり、本年で25周年を迎えます。

当初より親睦を重視し、地域社会への思いやりを大切にしつつ、ロータリー精神「超我の奉仕」の基、奉仕活動を行っています。

創以来、青少年交換事業「派遣、受入れ」を中心に、文化講演会・女性の為の健康教室・ゲートボール大会・

老人ホーム慰問・座禅とお茶会等々、クラブは地域に根ざした活動を心掛け、事業展開しています。

この25周年を機に30周年・50周年に向けて更なる推進を行い、青少年交換プログラムを軸とし、小さな子ども達から高齢者の方々を対象とした「新たなる高槻西ロータリークラブの支援活動」を確立することを指標と致します。